令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【馬宮中学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	本年度の研究主題である「学びを将来につなげるキャリア教育の推進～主体的に考え、選択し、行動する生徒の育成～」を核とし、基礎・基本の確実な理解と定着を図る。そのために、授業における振り返りや学習計画の見直しの時間を一層充実させ、生徒が自ら学習状況を把握し、学び方を調整できる力の育成を目指す。また、教員がICTの活用や課題設定の工夫を行うことで、生徒の粘り強く課題に向き合う態度を養い、継続的に学習へ取り組む力を高める。さらに、課題である文章の構成や展開に着目して考える力を育成するとともに、協働的な学びを通して多様な考えに触れながら思考を深め、主体的に学ぶ姿勢の定着を図る。
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	・生徒が自身の学習過程を振り返り、到達度や課題を踏まえて学習計画を見直す時間を設定する。【毎授業・適宜】 ・朝学習を年間を通して継続的に実施し、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、学習習慣の確立につなげる。【適宜】 ・ワークシートやレポート等の作成を通して、資料や根拠に基づいた表現活動を行うとともに、ICTの活用によって学習状況の可視化や課題提示を行う。【毎授業・適宜】 ・対話的、協働的な学習場面を授業ごとに設定し、多様な考えに触れながら思考を深めるとともに、単元ごとに学習成果を振り返る機会を設ける。【毎授業・単元ごと】

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	教科に関する調査において、国語では、「情報の扱い方に関する事項」などで良好な結果を示す一方、「読むこと」や「書くこと」の分野においてはさらなる伸ばしどころがみられる。数学では、全般的に各領域の理解や思考力の向上が求められる中で、特に「図形」や「関数」の領域において一層の理解と定着を促していく必要性が伺える。また、各教科の強みを伸ばしつつ、課題のみられた領域を中心に、基礎・基本の徹底と発展的な活用力の育成へ繋げていくことが求められる。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	生徒は規則正しい生活習慣と自己肯定感を持ち、落ち着いた環境で学校生活を送っている。授業中の話し合いや学習の振り返りを前向きに取り組んでいるものの、国語の長文読解や記述、また、数学の「図形」や「関数」の分野といった視覚的、抽象的な概念の理解や問題解決に強い苦手意識を抱えていることが読み取れる。自尊意識の高さや学習意欲が十分に教科の定着へ結びついておらず、基礎概念の確実な理解や、論理的に考えを深めて表現する力を身に付けるための丁寧な学習支援を求めている実態が伺える。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価（※） B	朝学習を通して基礎・基本の定着を図るとともに、継続的な学習習慣の形成に努めている。また、授業では生徒が学習内容や自身の取組を振り返り、次の学習につなげる時間を継続的に設定している。そして、ワークシートやレポートを活用した表現活動を実施し、根拠をもとに考えをまとめる機会を設けている。さらに、ICTを活用した課題提示や情報共有、対話的・協働的な学習活動を取り入れることで、多様な考えに触れながら思考を深める場面を設定し、主体的に学ぶ姿勢の育成を進めている。
⇓		
学力向上策の見直し	これまでの取組により、生徒が学習を振り返る習慣や協働的に学ぶ姿勢が徐々に定着してきている。今後も、授業における振り返りや学習計画の見直しを継続し、生徒が自ら自身の課題を把握しながら学習を進められるよう支援していく。また、朝学習による基礎・基本の定着、ICTを活用した学習支援、表現活動や協働的な学習活動についても引き続き充実を図る。そして、生徒一人ひとりが多様な考えに触れながら思考を深め、主体的に学び続ける力を高められるよう、継続的にこれらの取組を進めていく。	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）